研究主題

問いを発し、他者との協働を通して自ら学びを深める生徒の育成

～　学びをつなぎ思考の活性化を促す授業の工夫を通して　～

１　研究主題設定の理由

本校の教育活動で育成を目指す資質・能力は、「『よく生きよ』を自ら問い、自分の考えを広げ、深め、表現しようとする態度」「自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働（共働）しながら新たな考えを創造する力」「実社会や実生活において、獲得した知識・技能を課題解決に生かすことができる力」である。これらの資質・能力の育成に向け、授業で目指す生徒の姿を「自らの考えを広め、深め、表現することのできる生徒」「自ら課題を設定し、他者と意欲的に関わり合い、新たな考えを創造できる生徒」「主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒」とし、授業改善を図る。

本校では、これまで「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させることで、「生徒主体の授業づくり」に取り組んできた。また、「思考の活性化」をキーワードに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善も積み重ねてきた。しかし、昨年度の研究では、「学びをつなぐ」教師のコーディネート、また、「深い学び」を実現するための ICT の活用については課題が残った。今年度はこれらの課題改善に努め、共通実践事項に一層徹底して取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、目指す資質・能力の育成に取り組むものとした。

○「問いを発し、他者との協働を通して」について

「問いを発し」とは、自ら問う姿勢であり、目の前にある問題と既習の知識や経験との隔たり、あるいは問題と捉え、解決のプロセスの中で学びを継続する態度である。「他者と協働して」とは、対象・他者・自己と対話することで成熟していく三位一体の活動の学びの中で、他者と考えや思いを擦り合わせることで、多くの視点からのものの見方や考え方を得ることを表している。

問題を解決していくプロセスで生徒同士、生徒と教師、あるいは自己との対話や議論を行うことで、生徒の思考を広げ深めることにつなげる。そして、地域や社会をよくするために何をすべきかを考え、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。そして、そのプロセスの中で他者と関わる必然を感じる。

問いを発し他者との協働を通して生徒は、実生活や実社会に生きる知識・技能を獲得することができ、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。

○「自ら学びを深める」について

「自ら」とは、「主体的な学び」の態度である。課題意識をもって物事を見つめ、そこから探究すべき課題を見いだす。そして、既習事項を生かして解決できないか、その方法を探り、見通しをもって学習を進める生徒の姿を目指す。「学びを深める」とは、既得の知識や技能を活用したり関連付けたりして深い理解につなげることや他者との交流を通して自分の考えを見直したり再構築したりすることを表す。

これまで、各教科等で、学習形態を工夫し、能動的な問題解決の過程を重視して、思考の深まりを図ってきた。今年度はさらに、生徒の意見をコーディネートし、全員が納得するまとめを導く指導や思考の過程が見える板書、ノート作り、学習シートの工夫、そして振り返りの時間の確保によって、生徒が思考の深まりを実感できるようにしていく。それが「対話的で深い学び」につながるものと考える。

２　研究仮説

生徒が関心・意欲を高め、主体的に課題を設定し、その解決に向けて問いを発しながら取り組める単元・題材を構想する。そこで、ねらいに迫る効果的な学び合いを取り入れた多様な学習活動を展開し、生徒の考えをつなぐ教師のコーディネートを機能させることで、生徒の思考を活性化し、深い理解を実現することができるであろう。

３　授業で目指す生徒の姿

・自らの考えを広め、深め、表現することのできる生徒
・自ら課題を設定し、他者と意欲的に関わり合い、新たな考えを創造できる生徒
・主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒